

新仕事場 ウォッチャー

studio Blue Door 道添 剛さん

2008年度新入会員!
 studio Blue Door 代表、フォトグラファー道添剛さんを訪ねました。



■スタジオ ブルードア
 教えていただいた場所にたどり着くと、そこには青い扉が。初めて借りた部屋の扉の色で、事務所の名前を決めた。独立してBlue Doorとして4年目。プライベートの写真撮影・アルバム制作を中心に、様々な仕事に取り組んでいる。

■助けてくれる人がいるもんだ
 その時その時に、助けてくれる人ともめぐり会った。いま携わっている「マナーハウス島津重富荘」支配人や、建物撮影のきっかけとなった建築家の方々の出逢い等もその一部。
 そして、今の仕事を始めるきっかけは、後に師匠となる人の弟さんとの出逢い。実は、道添さんは金融機関で社会人としてスタート。毎日のルーティン営業先の靴屋の店長が、道添さんが写真修行することになった「STUDIO POPPO(スタジオポッポ/鹿児島市吉野町)」主宰の弟さんだった。全く興味の無かった写真の世界の扉を開く一大転機となった。



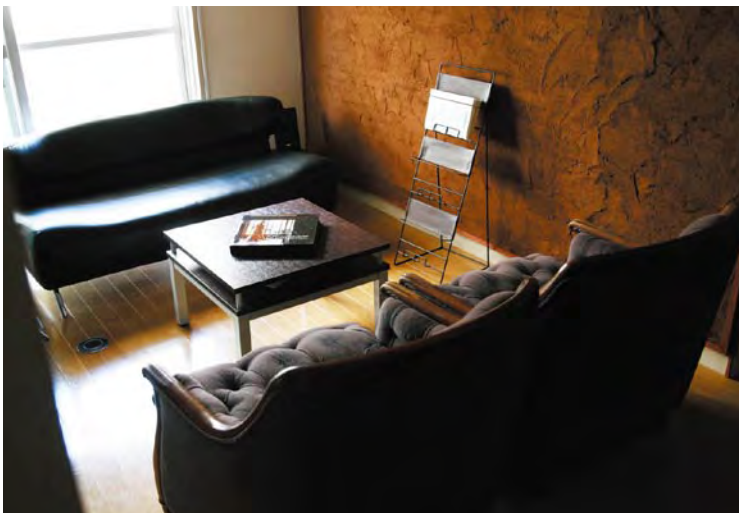
■人間性が売り
 プライベートのアルバムの中に、普段着で和む新郎新婦が見える。自宅など、二人にとって価値ある場所へ出かけ撮影する活動を、サービスで行っている(いずれは有料に)。撮影中はお名前前で呼びかける。仕事の関係が終わってから、飲みに行ったりすることも。アルバムを手にしたお二人から届く、あたたかいお礼状に励まされる。鹿児島県で、新郎新婦のご両親との会話もすんなり。

「重富荘」では、他に2社大手写真スタジオが入っているが、Blue Door(従業員3名)も特色は異質? 「人間性が売りなんです」と語る。
 カメラをかまえる人との関係は、きつと撮られる人にとってとても大切。どんな顔で写真におさまるかに大きく影響があると感じる。

■付加価値が乗ってきた
 ここに至るまで、車で長崎1泊2日撮影&取材40件! 等過酷な業務も経験。色々やってくる、様々な撮影を引き受けられるように。季節労働ながら、多忙な毎日だが、「今は旬」と表現する。金融機関で中小企業を見てきた目で、冷静に考えられている様子。
 将来の展望は「郊外にちっちゃいスタジオを持ち、地域の家族写真など「コツコツ」撮りたい...そうならないかもしれないけれど」と伺って、うーん、何となく想像できる感じー!

□studio Blue Door 代表 道添 剛
 □892-0842 鹿児島市栗十石町2-17 ニュー天神ビル601
 □099-800-7123 / FAX 099-800-1784
 □Email: bluedoor@kag.big.jp
 今年度、仕事場ウォッチャー担当...大歓迎の願です。

*写真 村岡良寛
 *文 川邊佳乃



特定非営利活動法人「鹿児島デザイン協会」定例総会



川崎監査役



西田議長



柳田理事長挨拶

平成20年6月12日18時30分より鹿児島東急インにて「NPO法人鹿児島デザイン協会第通常総会が開催されました。(会員48名のうち出席者19名委任状提出16名で過半数となり総会は成立)。
柳田理事長の挨拶の後、西田さんを議長選出し平成19年度活動報告、収支決算、平成20年度活動計画案、収支収支予算案が承認されました。
引き続き小森副理事長の挨拶、並びに御来賓の鹿児島県商工労働部産業立地課産業支援対策監寺園様のご挨拶、(財)鹿児島県産業支援センター事務局長井上様の乾杯の音頭の後、にぎやかな懇親会となりました。



懇親会



寺園様ご挨拶



総会風景



井上様乾杯の音頭



益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。
又平素は協会の運営には多大な協力を賜り深く感謝
しております。

早いものでNPO法人化しまして2年目を迎える
わけですが振り返ってみますと思考錯誤の
一年間だったと思います。残念ながら全体的には活
発に活動できなかったのではなからず反省していま
す。ただ法人化したことにより社会的信用を得るこ
とができたのでしょから外部団体等からの協力要請
が増加しています。共生・協働センターのフェステ
イバルへの参加、県のシンガポールデザイン視察へ
の派遣、そして今年10月鹿児島で開催され50万人動
員すると言われているネリリンピック2008実行
委員会等へ参加しています。外部団体等との交流に
より当協会のアピールの場となり、しては社会に
大きく貢献しているのではないかと考えています。又
当協会の一大行事であるかごしまデザインコンペも
17回を数えることになりました。すでに来年2月の
開催も決定しています。

今回のかごしまデザインコンペ2008は日曜日
が開催されなかつたにも関わらず沢山の御来場をい
ただきデザインについての関心の高さを示していま
した。又、マスコミがいつになく多くデザインコン
ペのことが沢山報道されていたように、又、優秀
作品も商品化が進み具体化してきているように思
います。

このように今回のデザインコンペではデザインの
重要性について訴えることができ結果として鹿児島の
産業デザイン振興に大きく貢献できたのではない
かと思っております。

協会としては当然に収益事業もできる訳ですが、
今後は県等の入札制度等にも参加していきたいと考
えています。協会には各分野に優れた人材がいま
すので機会があればこのような制度にもチャレンジし
ていきたいと思っています。最後になりますが、協会
活動で大事なことは委員会活動が充実することです。
新委員長のもとあらたに委員会を盛り上げていた
だきますよう切にお願いいたします。

とまかく今期は昨年度よりも一歩でも進化してい
かなければならぬと強く感じていますので会員の
皆様の絶大なる御協力賜りますようお願い申し上げ
ます。
みんなの英知を出し合い素晴らしい協会を創りま
しょう。

「鹿児島デザイン協会」 定例総会懇親会



「ダンカイハウス」

副理事長 小森昌章



「ダンカイハウス」を設計する機会が増えている。定年退職後に郷
里鹿児島に戻り人生の終末を迎えたいと願う団塊世代の御夫婦の住
宅。今年はずで三件の住宅を設計させていただきました。どの御夫婦も
鹿児島出身で若い頃、鹿児島を離れて高度成長の中を懸命に駆け抜
けた方々ばかり。60歳を過ぎてからの家づくりなのでもちろん夫婦
二人住まい。

ケース1：Mさんご夫妻は40代で購入した東京の二戸建を売却し、
市内玉里に土地を購入。住宅を建てて今年3月に引越されました。
お二人は大手銀行での社内結婚。「老後は鹿児島に住むぞ！」と
なり早い段階から決めていたとの事。今は地元のおいしい食材を
探してお二人で食べ歩き道楽。いわく「身内がない東京に比べた
ら空気が安心する。」

ケース2：Yさんご夫妻は福岡の会社を今年定年。3人の子供
さんは皆福岡で独立されて孫にも恵まれている。にもかかわら
ず、福岡でのマンション購入も考えたが納得できず「どうして
桜島を眺めながら余生を」との望郷の念が強く、市内の高台に居
を構えられた。こちらも御夫婦とも鹿児島出身。いわく「孫は
たまに会うほうがかわいらし」

ケース3：Yさんはわけあって、一人暮らしなのだが今年熊本市内の
病院を定年退職。マンションを売却、移住促進奨励金150万円を霧
島市から貰い受け生まれ故郷の牧園の美家建て替え中。老いた母
親との二人暮らしの道を選択された。今秋に引越予定。いわく「敷
地隣を流れる天降川のせせらぎの音がどついても忘れられな」

人生80年の長寿命社会において終末の20年をどう生きていかに過ごす
かは人生において大命題であることは間違いないようだ。人は幼いう
ちに過ぎた川音や食べ物や風の声は老いてますます懐かしく離れ
ているからこそ恋しく、鮭が大海からわすかな匂いを嗅ぎ分けなが
ら生まれ故郷の小さな川を死に物狂いで目指すごとくふるさとへ戻
り、静かに老いを迎えたいと願う。まさに人生最後の家造り、これま
での人生経験的価値観が俄然と発揮される部分もあり、諦観的に全
面的にまかせてもらう部分もありで、なかなか興味深い家造りが味
わかる。それよりも何よりも少しだけ人生の先輩方々から酒を酌み
交わしながら聞かされた話がまた味わい深い。いつもその横には「こ
笑いなからうなすく興味がいるのだが、やはり最後に残るのは夫婦
なのか。わたへくはくはない落ちがついた」ところで失礼。

出席：柳田、三坂、森里、大高、松下、西田、若元、四元、吉迫、久保、千葉(竹下代理)、(兼原)岡

1…会長挨拶

2…協会の活動報告
ねりんピックの状況(期間：10月25日～29日総動員人数50万人)、柳田(実行委員)、竹下(デザイン部門委員)、三坂(アシスタント)委員が参加、応援協力は協会、会員には特になし。

3…委員会報告

広報・研修委員会
ニューズリリースは9月中旬に発行予定
研修旅行の件
11月21(金)～23(日)、岡山・香川
犬島アートプロジェクト、直島ベネッセハウス他イサム・グチ家庭美術館他
費用：¥60,000(協会より¥40,000/人程度補助)
→承認、早急に参加申し込みを募る
宿泊研修
10月18(土)～20(日)朝解散
川辺若尾公園(パンタロー)(仮予約済み)
費用：約¥4,000/人(シニア会員も参加させたい)
→承認、早急に参加申し込みを募る
HPの件
委員長で直接データの更新を行うようにした。会員情報、会員募集を早急に整備する。

企画・事業委員会
今回は委員会がなく、報告事項なし。委員会のメンバーを再検討する。

4…デザインフェア2009について

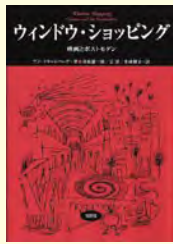
会場レアウト、デザイン協会部門については、企画事業委員会にて急ぎ検討のこと(対外交渉他、理事長に負担がかかりすぎたため、担当で役割を明確にし協力すること)。

5…その他

・新入会員の勧誘は、誘うだけでなく入会申し込みみや会費払い込みまでフォローする。
・鹿児島県ルネッサンスアカデミーについて(森重氏より紹介) 榎木孝明氏製作、主演の映画「半次郎」について、鹿児島映画コンプレックスを通じて、イベントなどの協力を行う。(デザインフェアでのコーナーも検討)

書籍紹介

「南日本新聞」2008年6月21日に掲載されました



ウィンドウ・ショッピング
映画とポストモダン
言語科学の冒険10
(著者)アン・フロードバーグ
(訳)井原慶一郎・宗洋/小林朋子
A5判上製 3,675円(税込)

本書は、アーケード商店街とデパート、映画館が組み合わさった街の中心商業地区(ミッドシティ)が、郊外のショッピングモールとシネマ(「ポストモダンシティ」)に移行する状況について論じている。また、ポストモダンにおける映画とテレビの役割にも言及。表象を通じた反響の知覚体験が日常生活に入り込む過程と影響を分析している。
代表著者の井原准教授は「モールは、アーケード、デパート、映画館、遊園地などの特性を統合したテーマパーク。一九八〇年代末にアメリカ各地で起こった歴史的遺産(マンハッタン・ブルース)の

が、本書で理論的に述べられており、それが鹿島でも出現された」と話す。鹿児島県の現実に照らし、天文館から映画館が消え、人の流れに変化が現れている。井原准教授は「ショッピングモールは回遊性を前提に設計されており、ある程度の委ねは誘った」と指摘。一方、本書はモールについて「地域色は必ずしも考慮せず、階層を超越している」など分析する。これら分析は「観光スポットを結んで回遊性を高めた。地域に根ざした街づくりの、天文館活性化のヒントになる」と、井原准教授は話す。

催し物

第一回デザイン遊歩



7月4日の企画事業委員会後磯の海水浴場から桜島の日の出を眺め、まじゅう、という案が出て、みんなで盛り上がる。当日の早朝続々と会員が集まってくる。とても朝が似合わない風潮の人たちだと思いき、ふと笑いが。早朝にもかわらず、磯の砂浜にはいる人々たちがいいるにはびっくりする。天文館の夜ののねー様達や、アベック、一人で海水浴に来てた泳いでいる人、駅のない白装束の宗教の団体が、みんな水入りしたり、いろんな人間模様も見ることができました。
さて、協会員はと言いつつ、カヌーで漕ぎながら現れる川○さん。濡れ髪にシヤパンとグラス片手に現れた堀○さん。その後皆に振舞っていただきました。早朝絶対に現れないと思っただけど、自分の誕生日をアヒールしながら朝からハイテンションの○坂さん。モータークルーザーでシャイに出現の顧問の○高・○重・○川○の迫氏の三人や、カヌーで皆を海上クルーズしていただいた、恵原夫妻。とても砂浜には似合わない、艶めかしいお姿の○理事副理事それと、一番デザイン遊歩にノリノリで協力的だった村○・松○さん。カヌーに乗って一番はしゃいでいた柳○理事長。総勢16名の参加を頂きました。会員の皆様も普段の夜の光景は見ていると思いますが、普段の生活時間外の風景・人物などを楽しんでみませんか。第二段のデザイン遊歩も検討中です。皆さんの参加をお待ちしています。

私のこだわりの場所「旧曾木発電所遺構」

川崎塗料 川崎眞俊

旧曾木発電所遺構のことを新聞で知り、その後カヌー遊びを始めた私は、いつかカヌーを漕いで「発見」したいとの想いに駆られ、遂に2001年の5月に単独決行了しました。所在地もはつきり知らず、カヌーを漕ぎ出す場所探しにも難儀しましたが、折りたたみ式カヌーで大鶴湖(鶴田ダム湖)を遡上すること約1時間、遂にその雄姿を見つけた時は言い知れぬ感動に襲われました。正にそれは中世の修道院かのような佇まいで湖面に浮かんで居たのです。その晩漕ぎ出した場所で車中泊した翌朝、何とバッテリーが放電してしまいました。助けを得ようにも携帯が通じないので、再度1時間かけて舞い戻りましたが、今度は朝もやの中の幻想的な姿を見ることが出来ま



した。その後も四季折々訪れていますが左岸には展望台も出来、右岸から直接訪れることも可能になりました。でも私は最初の感動を忘れないために難儀してもカヌーで近づき、タッチするごとに喜びを感じていきたいと思います。



春の園遊会(花見編)

4月5日(土)春の園遊会と称し、ゴルフ大会、釣り、花見を企画しました。(釣りは少人数のため断念)朝から天気が危ぶまれましたが、ゴルフ大会は7名参加。夕方からは小雨にも係わらず、10余名が参加しました。最後には大雨になり散々でしたがこれに懲りずに来年も企画しましょう。



編集後記

一年間が開きましたが「ニュースリリース」を再開します。今回より編集(久保誌面製作(船附)が担当いたします。取材協力他今後ともご協力宜しくお願いたします。奇数月1日発行予定ですので、掲載したい情報などありましたら半月程前までにご連絡下さい。連絡先鹿児島市与次郎2-7-25インフレーション(株)営業推進課 久保
TEL:099-252-9911 FAX:099-259-4800
E-mail: kubo_j@inftratec.co.jp